

# 多文化初期指導教室開催業務 実施報告書

平成23年 3月

NPO 法人 ABT 豊橋ブラジル協会

# 目 次

---

<b>第1章 多文化初期指導教室の開催状況</b>	<b>1</b>
1. 豊橋市における外国人の状況	1
2. 教室の概要	2
(1) 背景	2
(2) 教室概要	2
(3) 募集方法	3
(4) 実施体制	3
(5) 保護者への調査	3
<b>第2章 プレスクールの実施内容</b>	<b>4</b>
1. 指導計画の作成	4
(1) 指導計画と到達目標	4
(2) カリキュラム	6
2. 指導状況	7
(1) 指導全体	7
(2) 語彙調査	8
(3) 配慮した点	9
(4) その他	9

(5) 学校見学	9
3. 保護者及び関係機関との情報共有	10
(1) 保護者への連絡	10
(2) 関係機関との情報共有・連携	11
<b>第3章 プレスクールマニュアルについて</b>	<b>12</b>
1. マニュアルの活用状況	12
2. マニュアルに対する意見	13
(1) マニュアル全体に関する点	13
(2) 今後改定を期待する点	13
3. 日本語ができる外国人等がマニュアルを活用した場合の課題	14
<b>資料編</b>	<b>15</b>

## 第1章 多文化初期指導教室の開催状況

### 1. 豊橋市における外国人の状況

豊橋市における外国人登録者数は17,343人で（平成22年4月現在）<sup>1</sup>、市の人口の約4.5%を占める。最も多い時期と比較すると、その数は減少したものの、現在においても県下で2番目に外国人が多い自治体である。また、市内の小学校に在籍する外国籍の児童数は802人で（平成22年4月現在）<sup>2</sup>、全体の約3.5%を占める。

豊橋市の特徴としては、名古屋市の九番団地、豊田市の保見団地のように、主に一つの団地に集住しておらず、いくつかの団地に分散化していることが挙げられる。これにより、市内の小学校52校のうち16校において国際学級を設置、その他の小学校については相談員の巡回により外国籍の児童への指導を実施している。

■ 校区别人口

（表-1）

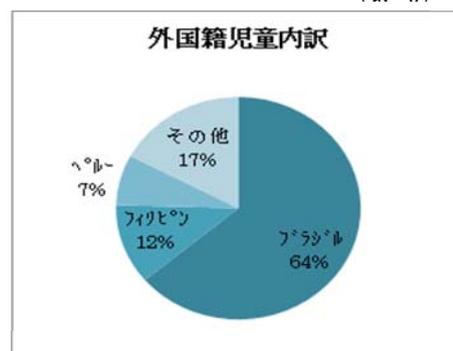
校区名	人口	校区名	人口	校区名	人口	校区名	人口	校区名	人口
岩田*	16,360	津田	4,092	向山	7,413	大崎	3,693	細谷	2,839
	2,545		139		218		413		67
豊*	7,903	牟呂*	13,449	前芝	4,189	野依	6,881	二川*	8,575
	303		628		77		53		399
東田	9,139	汐田*	7,435	西郷	2,579	植田	5,157	二川南	9,329
	228		445		6		89		358
八町	3,767	岩西*	9,430	玉川	5,520	牛川	9,105	豊南	2,659
	81		1,245		228		230		38
松葉	6,987	飯村*	12,566	吉田方	16,507	鷹丘*	13,759	高根	2,228
	142		716		422		692		41
花田	7,749	つっじが丘*	9,842	高師	12,718	下条	1,592	老津	3,820
	231		374		265		16		106
松山	6,722	旭	4,033	幸*	16,652	多米*	11,494	杉山	4,328
	246		139		507		1,321		25
新川	5,858	栄*	15,358	芦原	7,555	嵩山	1,541	賀茂	1,463
	178		620		115		2		12
羽根井	9,138	天伯	5,336	福岡*	13,478	石巻*	3,059	総人口	382,459
	308		144		563		408		外国人登録
下地	6,260	大清水	6,345	中野*	8,469	谷川	2,348	上段: 総人口	
	149		68		673		83		下段: 外国人登録者数
大村	3,612	富士見	8,400	磯辺*	11,043	小沢	2,685	※国際学級設置校	
	128		138		679		42		

■ 児童数

（表-2）

国籍	児童数
日本	22,228人
ブラジル	512人
フィリピン	93人

（表-3）



<sup>1</sup> 豊橋市の統計による。

<sup>2</sup> 豊橋市教育委員会の統計による。

ペルー	59人
その他	138人
合 計	23,030人

## 2. 教室の概要

### (1) 背景

当法人が現在受託している「定住外国人の子どもの就学支援 - 架け橋教室」事業（文部科学省 / 国際移住機関）において、平成22年1月子どもたちを募集したところ、未就園の子どもが11名集まった<sup>3</sup>。子どもたちを取り巻く状況は、昨年度末から本事業の募集時である平成22年9月時点において大きな変化は見られなかったことから、未就園の子どもたちは潜在的に存在するであろうと予測された。従って、これら未就園の子どもを主な対象とし実施することとした。主な対象者を未就園の子どもとしたことにより、先ずは子どもたちが規則正しい生活を送る必要があると考え、実施日時を月～金曜日の午前中とした。

### (2) 教室概要

実施場所：豊橋市中岩田 エスパソABT（当法人事務所）

実施期間：平成22年10月12日（火）～ 平成23年 3月11日（金）※全19週

実施日時：月～金、午前9時～12時

参加者：9名 ※下表（表 - 4）参加者内訳参照

参加対象者：以下のいずれか。

- ① 保育園または幼稚園に通所していない子ども（不就園）
- ② 外国人向け託児所に通所している子ども

### ■参加者の状況

（表 -

4)

		性別	国籍	家庭内使用言語	入室前状況	在籍期間
1	Aくん <sup>4</sup>	男	ブラジル	ポルトガル語	不就園	19週
2	Bくん	男	ブラジル	ポルトガル語	不就園	19週
3	Cくん	男	ブラジル	ポルトガル語	ブラジル人向け託児所	17週
4	Dくん	男	ブラジル	ポルトガル語	不就園	12週
5	Eくん	男	ブラジル	ポルトガル語/日本語	不就園	9週
6	Fさん	女	ブラジル	ポルトガル語	不就園	8週
7	Gくん	男	ブラジル	ポルトガル語	不就園	1週
8	Hさん	女	ブラジル	ポルトガル語	不就園	13週

<sup>3</sup> 「架け橋教室」においては、未就園の子どもは事業の積算対象とはなっていない。

<sup>4</sup> 便宜上、男の子には「くん」、女の子には「さん」とする。

9	くん	男	ブラジル	ポルトガル語	不就園	1週
---	----	---	------	--------	-----	----

〔備考〕

Aくんはプレスクール入室前、「架け橋教室」に半年間在籍し、日本語教育及び適応指導を受けた。

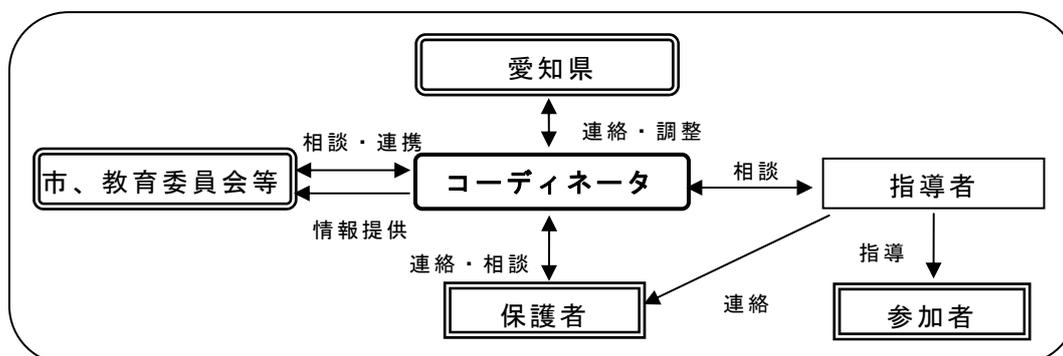
### (3) 募集方法

募集方法と情報入手経路は下表の通りである。

(表-5)

募集方法／情報入手経路		内訳
1	チラシ配布（集住団地、ブラジルスーパー、イベント）	3人
2	当協会会報誌での告知	0人
3	インターネットラジオ（当協会運営サイト）での告知	0人
4	豊橋市の広報紙への掲載	1人
5	小学校からの案内（兄弟の転入手続き時、就学健診時）	3人
6	市職員による戸別訪問 <sup>5</sup>	1人
7	その他（架け橋教室在籍者）	1人

### (4) 実施体制



〔指導者〕講師：1名（初等教育経験者）

バイリンガルアシスタント：2名（言語 - ポルトガル語）

### (5) 保護者への調査

「調査表」(マニュアルP78～81)により、調査を行った。重点的に聞き取りを行った内容、追加質問は以下の通りである。

●重点質問事項

- ① 成育歴
- ② 家庭内使用言語

<sup>5</sup> 豊橋市多文化共生・国際課が就学時健診名簿を基に、外国籍の子どもの就園状況調査を実施。調査により不就園が確認された子どもに対し、市職員よりプレスクール入室勧奨を行った。

- ③ 将来設計（帰国の予定など）
- 追加質問事項
  - ① 緊急連絡先（家族以外として、派遣会社の担当者を記入する場合が多い）
  - ② 保険の有無（緊急時、病院で受診可能かの確認のため）

## 第2章 プレスクールの実施内容

---

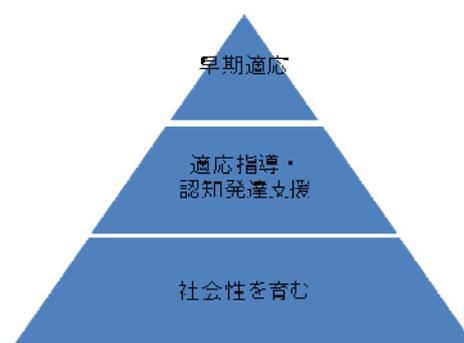
### 1. 指導計画の作成

#### （1）指導計画と到達目標

##### 1）基本的な考え方

本教室における上位目標を「学校生活に早期に適應できること」とした。その上位目標の根底をなすものが、社会性を育むことである。

対象者は1名を除く8名全員が不就園であったことから、同世代の子どもたちと遊ぶことが殆どない、非常に狭い世界に生きている子どもたちであった。従って、小規模ながらも集団生活を体験し社会性を身につけることを基軸とし、その上で小学校への入学準備としての適應指導及び学習指導を行った。



##### 2）配慮した点

#### ● 保育園における活動の取り入れ

##### ① 情操教育

創作活動などの情操教育を取り入れた。

- ・ 作品作り（絵、粘土、秋の工作など）
- ・ 植物観察（チューリップの生育観察）

##### ② 公園での遊び

子どもたちは自宅で多くの時間を過ごしていることから、1週間に1度、近くの公園で遊ぶ機会を設け、併せて以下の指導も行った。

- ・ 社会のルール（公共施設の利用について）
- ・ 交通ルール（公園への道中で指導。登下校の練習も兼ねる。）
- ・ 小学校で行われるであろう体育の一部（準備体操、鉄棒、縄跳等）

##### ③ 休憩時間における環境の整備

絵本や積み木など、子どもの想像力を養う玩具を用意した。

#### ● 母語教育

外部と接することが少ないため、多くの子どもが母語力も弱いことから、

必要に応じ母語も指導した。また入室時に保護者へは、母語の喪失を回避するために家庭内で母語力を育てる必要性・重要性を説明した。

(例) 名詞を使用して話す。

Pega aquela **coisa**. ( **あれ**取って ) ※coisa = 物

→ Pega aquele livro. ( あの本を取って )

## ●保護者への説明

多くの保護者は、勉強は「書くこと」「机に向かって勉強すること」と考えており、本教室も日本語を学習する場との認識を持っていた。従って、申込時には本教室における学習目的・学習目標について十分な説明を行った。

尚、これらの説明は申込時に加え、各学習項目の指導前にも繰り返し説明を行い、保護者の理解を促した。

### ①適応指導

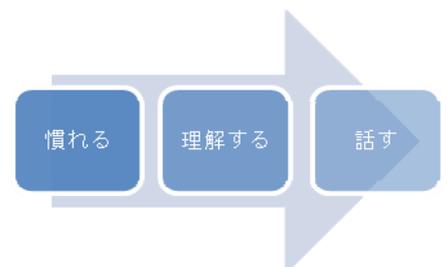
日本の学校に早期適応できるよう、以下の活動を行う。

- ・掃除 → 日本では自分たちの教室は自分たちで掃除をする。
- ・交通ルール → 集団登下校に備え、道路を歩く練習をする。
- ・学級での仕事 → 日直、係の仕事（窓の開閉、配り係）

### ②日本語

日本語に慣れ、日本語での指示を理解し、簡単な日本語で自分の意思等を伝えることを目標とする。

文字学習は小学校入学後、自分の持ち物等すぐに認識できるよう、自分の名前だけは読めるよう学習する。



## 3) 事前研修

- 教室運営を円滑に進めるために、先ずはスタッフ間で共通認識を持つことが重要であると考え、以下三点につき話し合いを行った。

### ①本事業の趣旨

### ②本教室における目標

### ③目標達成のための方法

- 教室開始までの実動準備期間が13日あったが、その期間内にカリキュラムの作成、それに応じた教材作成をする必要があったことから、指導方法や教室活動の進め方など、具体的且つ実践的な研修をすることができなかった。

尚、実践的な研修は実施できなかったが、毎日の授業後、その日の授業の振り返り、翌日の授業の打合せを行った。

(2) カリキュラム

1) 指導項目と到達目標

(表-6)

指導項目	指導内容	到達目標
適応・生活	①挨拶 ②朝の会・帰りの会 ③健康観察 ④姿勢 ⑤教室での過ごし方 ⑥掃除 ⑦係の仕事 ⑧日直の仕事 ⑨給食指導  ⑩交通ルール ⑪公園、道路でのマナー  ⑫はさみ、のりの使い方 ⑬鉄棒 ⑭縄跳び ⑮地震のルール※ <sup>2</sup>	①挨拶（おはよう等）が言える。 ②返事ができる。 ③健康状態が言える。 ④正しい姿勢で着席して授業に参加できる。 ⑤三つの約束※ <sup>1</sup> が守れる。 ⑥ほうきや雑巾を使用し掃除ができる。 ⑦窓係、配り係の仕事ができる。 ⑧授業の始めと終わりに挨拶ができる。 ⑨行儀よく座って食べる。 箸を使うことができる。 ⑩整列、右側通行、道路の横断ができる。 ⑪他人に迷惑を掛けない。 ゴミを散らかさない。 ⑫安全にはさみを使うことができる。  ⑮避難時における地震のルールが言える。
日本語	①聞く ②話す ③読む ④書く	①指示を理解する。 ②学習した言葉を使って話すことができる。 ③自分の名前を読むことができる。 ④正しく鉛筆を持つ。 自分の名前を書く。
算数	①数 ②数量  ③図形	①数の概念を理解する。10まで言える。 ②大小を比較することができる。 具体物と数字を対応することができる。 ③形を理解する。

※1：三つの約束

- ①教室や廊下では走らない、ふざけない。
- ②勉強と休憩の時間を分けて頑張る。
- ③友達と仲良くする。

※2：地震のルール（避難時）「お・は・し・も」

おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない

## 2) カリキュラム

- ① 全体スケジュール（資料 - 1）参照
- ② 週単位カリキュラム（資料 - 2）参照
- ③ 語彙一覧表（資料 - 3）参照

## 3) 毎日の授業の流れ

（表 - 7）

時 間	内 容	留意点など
9 : 00	朝の会 ①健康観察 ②日付・天気 ③持ち物の確認 ④三つの約束 ⑤地震のルール	①前期は講師の号令、後期は日直の号令による。 ②確認後、連絡帳にスタンプを押す。 前期は指導員が、後期は配り係が連絡帳を配布。 ③机の上に出して確認。 ④前頁「指導項目と到達目標」の欄外（※1）。 ⑤前頁「指導項目と到達目標」の欄外（※2）。
9 : 10	本の読み聞かせ	聞く姿勢を整える為、歌をうたう。 「お話、お話、パチパチパチパチ 嬉しいお話、楽しいお話、 シーシーシーシー 静かに聞きましょう おおきな拍手（拍手） 小さな拍手（人差指での拍手） きらきらきらきら 手はおひざ」
9 : 45	日本語	
10 : 25	算数・日本語	毎週木曜日は公園で活動。
11 : 40	生活・日本語	
11 : 40	掃除	1月より行う。
11 : 50	帰りの会	

## 2. 指導状況

### （1）指導全体

9名の子どもは、入室時期、日本語力、母語力、発達状況、全てが異なっていたが、個別対応はせず各指導員が役割分担をし、一斉授業を基本とした教室運営を行った。但し、学習内容によっては、個々の能力に合わせて個別対応も行った。

#### ●各役割

講師：教室運営、授業の実施

アシスタント1：ポルトガル語担当（通訳、母語で注意が必要な場合）

授業サポート

アシスタント2：日本語担当（モデル会話）、授業サポート

※状況に応じてポルトガル語も使用した。

## （2）語彙調査結果

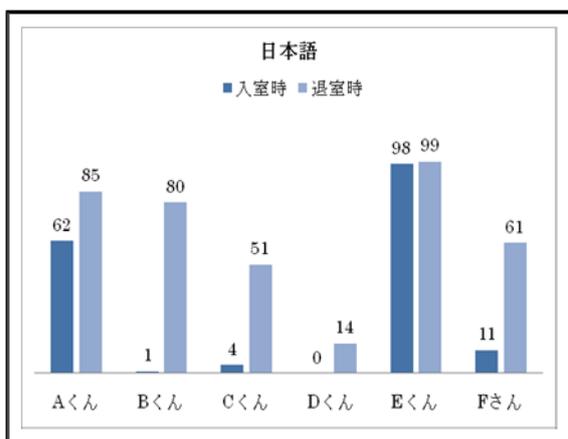
（表-8）

		国籍	家庭内使用言語	在籍期間	日本語			ポルトガル語		
					入室時	退室時	伸び数	入室時	退室時	伸び数
1	Aくん	ブラジル	ポルトガル語	19週	62	85	23	85	90	5
2	Bくん	ブラジル	ポルトガル語	19週	1	80	79	76	87	11
3	Cくん	ブラジル	ポルトガル語	17週	4	51	47	88	88	0
4	Dくん	ブラジル	ポルトガル語	12週	0	14	14	72	73	1
5	Eくん	ブラジル	ポルトガル語/日本語	9週	98	99	1	4	51	47
6	Fさん	ブラジル	ポルトガル語	8週	11	61	50	82	90	8
7	Gくん	ブラジル	ポルトガル語	1週						
8	Hさん	ブラジル	ポルトガル語	13週	1					
9	Iくん	ブラジル	ポルトガル語	1週	19					

〔備考〕Gくんは在籍期間が1週間だったため、調査は実施していない。

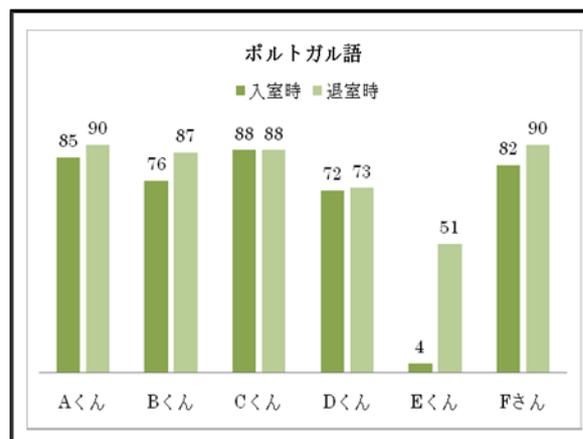
■日本語

（表-9）



■ポルトガル語

（表-10）



### ●語彙調査／不就園児への配慮

「質問97：友達はいますか。」という質問に対し、入室時は全員「いない」との答えが返ってきた。一人目の調査において「いない」との答えが返って来た時、二人目以降に同質問をすることを躊躇したが、考慮の末、全員に質問することにした。

不就園の子どもは、その世界が狭い故に「友達がいらない」ということが何を意味するか理解していないとも見受けられたので、実施者としては酷な質問ではなかったと信じたいが、やはり配慮は必要であったという思いが禁じえない。

(3) 配慮した点 ~子どもへの注意の仕方~

子どもは大人の顔色を見て「ここまでなら大丈夫」と、子どもなりに判断基準を設けていることから、正しくない行いをしたときは、厳しく注意した。注意する上で配慮した点は次の通りである。

- ・なぜいけないかの理由をきちんと説明する。
- ・繰り返す行為に対しては、厳しさの度合いを上げていく。  
(優しく諭す → 厳しく注意する)

(4) その他

子ども同様、保護者にも日本の小学校のルール等に慣れてもらうことを目的とし、以下の点につき保護者に理解と協力を求めた。

●持ち物(※朝の会で確認)

筆箱、自由帳、ハンカチ、ティシュペーパー、水筒

(留意点)

自由帳：休み時間、活動が早く終わった子どもが待っている間に使う。

1日1ページを使うというルールを定め、大切に使うことを学ぶ。

水筒：水、またはお茶のみ。

●服装

教室は暖房を完備しているが、学校生活に慣れるために特別寒い日以外は暖房をつけず、暖かい服装で過ごすようにした。

※ブラジル人の子どもは、外套の中にTシャツという服装の場合が多い。

(5) 学校見学

実施日時：平成23年 2月23日(木) 10:30 ~ 11:30

実施校：豊橋市立岩田小学校

経緯：学校見学を依頼したところ、校区の保育園児が参加する体験入学参加への提案を頂いた。更には、当該校へ入学しない子どもを含め、当教室の子ども全員受け入れのご配慮を頂いた。

内容：①学校見学(教室、国際学級)

②交流会(1年生による学校紹介、遊び)

### 3. 保護者及び関係機関との情報共有

#### (1) 保護者への連絡・情報共有

##### ●連絡帳の活用

月初：当該月の学習目標を記載し、学習内容の連絡をした。

週1回：学習の様子や生活態度、事務連絡等記載し情報共有を図った。(毎週金曜)

留意点：言葉は読み手の主観が入ることにより、状況や意図することが正しく相手に伝わらないことが往々にしてある。従って日本語、ポルトガル語の両言語において、表現には細心の注意を払った。また重要なことに関しては、電話または直接伝えることで誤解を回避し、保護者とスタッフの相互理解を深めた。



上：カレンダーと学習目標

下：先生からのコメントなど

##### ●保護者会の実施

実施日：平成22年11月21日(日)

目的：①教育に関する講演会の実施し、子どもの教育への関与の重要性を伝える。  
②入学時には、まとまったお金が必要となるが、どのくらい必要かの情報がない。各校では入学説明会を2月に実施することが多く、説明会実施後から準備を始めるのは経済的に大変であるため、早い段階から準備するよう促す。

説明内容：①準備物とその金額

②就学支援金

③入学式の服装

(留意点)

- ・保護者の中には、とりわけランドセルの値段に驚く人がいる。従って、6年間使用するために丈夫に作っているため安くない旨の説明を行った。
- ・就学支援金は各学校で行わず、市役所で手続きをする。その際、源泉徴収票など収入の証明書が必要となる。

##### ●入学式の服装

過去にジーンズで入学式に参加し、恥ずかしい思いをした外国人の保護者がいる。本人は、一般的に日本では、どのような服装で出席するかただ知らなかっただ

(2) 関係機関との情報共有・連携

●実施前・実施中

豊橋市教育委員会、豊橋市多文化共生・国際課、各校にご協力を頂き、入室勧奨を行った。入室があった場合は、都度連絡し常に情報共有を図った。

●実施後

子どもたちが入学する学校へ次の書類を提出し、情報提供を行った。

- ① プレスクール申込書（マニュアルP78～81）
- ② 個票（資料 - 4）
- ③ 語彙一覧表（資料 - 3）

### 第3章 プレスクールマニュアルについて

#### 1. マニュアルの活用状況

##### ●活動のヒント

「活動のヒント1：ことばかけヒント」は、指導する上で重要な点であることから、研修時にスタッフ全員で内容確認し、実践するよう心掛けた。

##### ●活動例

(表 - 11)

活動例	頻度	備考
1. インタビューごっこ	◎	
2. 座り方		別本を参考に指導
3. ひげじいさん	◎	絵及び紙芝居を使用し指導
4. 鉛筆の持ち方・運筆		プリントを使用
5. なんだろうなボックス	◎	
6. 歌で覚える体の部位の名前	◎	④は歌わず
7. はな はな はな	—	
8. ジェスチャー	○	「Vています(進行)」表現でも使用
9. ひらがなパズル	◎	50音表とひらがなカードを別途作成
10. ひらがなジクソーパズル	—	
11. ひらがな磁石	◎	公文のカードを使用。神経衰弱にも活用
12. ひらがな語彙と絵カード	◎	
13. ひらがなスタンプ	—	
14. しりとりあそび	○	教室の前半はカードで、後半は口頭で実施
15. すごろく	○	算数指導にて使用
16. 「もちもの」シート	○	
17. 宝探し	—	
18. 連語カード	—	
19. スリーヒントゲーム	—	在庫切れのため購入できず
20. どちらが多い?	○	
21. 数字のへび	○	
22. 具体物と数のマッチング	◎	
23. あわせていくつ	○	絵カードで指導
24. タングラム	○	積み木を使用
25. カラフルポンポン	△	粘土で行う予定だったが、お菓子で実施
26. 魚釣り	—	

## 2. マニュアルに対する意見

### (1) マニュアル全体に関する点

活動例だけでなく、子どもを取り巻く状況などプレスクールを実施する上で必要な情報が記載されている点は、これから利用する者にとって非常に参考になる。他方、専門用語での記載や豊富な情報量は、子どもへの指導経験が全くない者または経験が少ない者にとって、却って負担にもなりうるので、情報の整理が必要だと思われる。

### (2) 今後改定を期待する点

#### ●語彙調査について

##### ① 調査票の多言語化

スペイン語、タガログ語、中国語の調査表も必要だと思われる。作成は各団体が行うのではなく、以下に挙げる理由により、本マニュアルの作成者である県が行うのが望ましい。

- ・ 翻訳の質の均一化（調査の質の維持）
- ・ 翻訳者の手配（地域によってはタガログ語の翻訳者を見つけることは困難）
- ・ 経費の問題

##### ② 語彙調査正誤表（P129）

子どもの母語の正誤表もあった方がよい。日本語の正誤表に照らし合わせても判断できない語があり、個人の判断に委ねられてしまう。

（例）ポルトガル語

日本語	答え	子どもに多い答え
①靴	sapato	tênis（スニーカー）
②暑い	quente	calor（「暑い」こちらを使うことが多い）
③丸	círculo/redondo	bola（bolinhaと言う言葉でよく使う）

※当教室においては、①②は正答とし、③は不正解とした。

（理由）算数の概念における形の質問事項のため。

#### ●活動例

各活動目的の分類化を分かりやすく記載することで、使いやすさを向上させる。

##### ① 目次

活動例の名前だけでは学習事項が分からないものもある。目次にも活動目的の分類を記載することで、検索時間短縮にもつながる。

## ② 活動例

活動例1	学校生活	〈インタビューごっこ〉 学校生活：日本語で簡単な自己紹介ができる。	1人～5人 10分程度
------	------	--------------------------------------	----------------

### 3. 日本語ができる外国人等がマニュアルを活用した場合の課題

日本語を母語とする者であっても、本マニュアルを読み込み理解し、更には活用するためには、一定の準備時間と指導経験が必要である。人材確保の観点から鑑みるに、子どもへの教育に従事した経験のある指導者を確保することは容易なことではない。更には外国人が指導者になった場合は、指導経験に加え、日本語能力も問われるところである。以上により、本マニュアルをより効果的に活用するために、次に挙げる対応が望まれる。

#### ●情報の優先付け

本マニュアルの記載内容は、全て重要且つ指導に従事する者には不可欠な知識であるが、指導経験がない者や外国人が利用する場合は、「これだけは最低限押さえておくべきポイント」などと明記し、情報を整理して記載した方が良い。

他方、更に理解を深める為に必要な情報は、「更に理解を深めたい人へ…」などと、読み手の経験・知識に応じ読むことができる構成にすると、より利便性が向上するのではないか。

#### ●外国人の指導者への配慮

本マニュアルは活動例にのみふりがなが付してある。全てにふりがなを付すと却って読みにくい場合があるので、全てに付すのも現実的ではない。情報の優先付けを行った構成内容にすることに加え、外国人にとっても負担の少ない表現（漢語表現減らす）などの配慮が必要。

#### ●研修の実施

子どもへの指導経験がない者が指導者になる場合は、本書を十分に理解している者による研修が必要であろう。また、外国語を母語とする者であれば、母語使用の効果的な場面も研修内容に組み込むと、より効果が高くなると思われる。

尚、いずれの研修も実際に模擬授業を行う、具体的な事例に基づくケーススタディを行うなど、より実践的な研修を行うことが望まれる。

# 資 料 編

## 1. カリキュラム等

資料-1：全体スケジュール	16
資料-2：カリキュラム(週単位)	18
資料-3：語彙一覧表	23
資料-4：個票	25

## 2. その他

資料-5：その他資料①(連絡帳・学習記録)	26
資料-5：その他資料②(達成カード)	27
資料-5：その他資料③(教室の様子①)	28
資料-5：その他資料④(教室の様子②)	29
資料-5：その他資料⑤(教材)	30
資料-5：その他資料⑥(作品等)	31
資料-5：その他資料⑦(遊具)	32
資料-5：その他資料⑧(活動の様子)	33
資料-6：新聞掲載記事(中日新聞)	34